

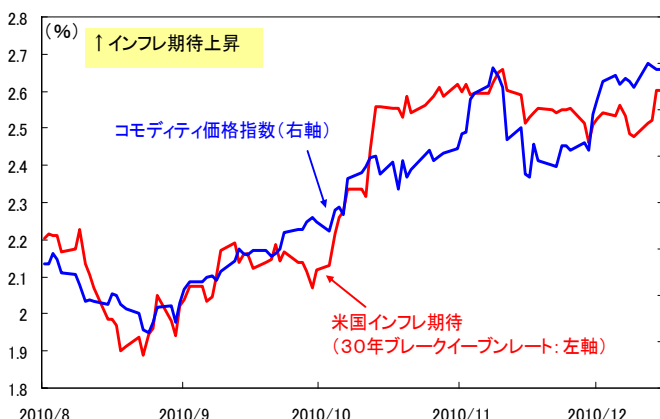
## 米国の金融緩和と株式市場

- ✓ 米国の積極的な金融緩和姿勢は、インフレ期待上昇の一要因であり、コモディティ価格は上昇。
- ✓ コモディティ価格の上昇は、主要輸出国を多く含むエマージング諸国の株価にプラス寄与。
- ✓ 米量的緩和の進展と米国株・エマージング株上昇はリンクしており、今のところ同措置は株価のプラス要因として機能。

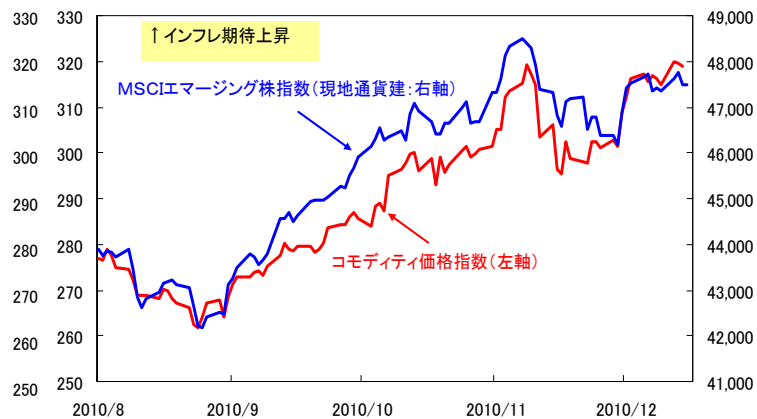
●12月の米国連邦公開市場委員会(FOMC)では、金利の据え置きに加え、来年6月期までに6,000億ドル、月間で約750億ドルの国債を購入する第二弾量的緩和(QE2)も据え置きました。QE2は成長率の加速、失業率の低下に加え、基調的なインフレ率の上昇を目的としています。実際、8月以降の米インフレ期待は、商品相場の反発や米国の積極的な緩和姿勢を反映し上昇しています。この動きを見る限り、金融当局の積極的な緩和姿勢はインフレ期待の醸成に一定の効果を挙げているものと考えられます(図表①)。

●米国のインフレ期待上昇はコモディティ価格の上昇と密接に関連し、コモディティの主要輸出国を多く含むエマージング諸国の株価にもプラスに働いています(図表②)。

【図表①】

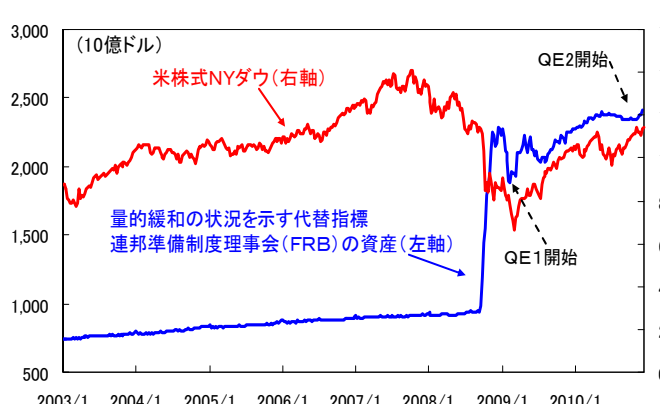


【図表②】

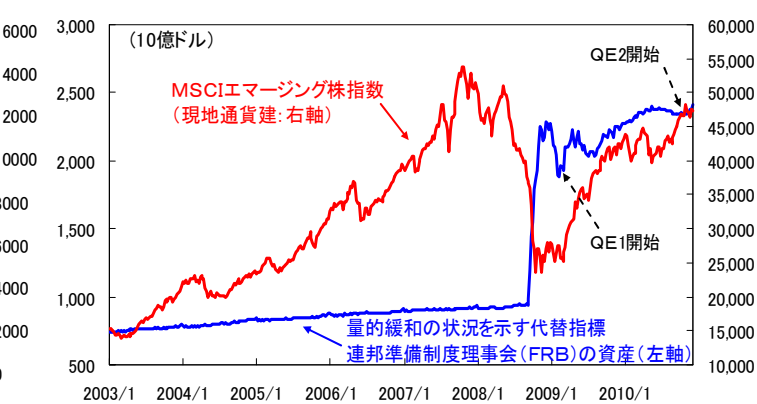


●追加量的緩和政策の効果は不透明ながらも、株式市場には好感されているようです。米国株は、QE1開始後に底を打ち、上昇に転じており、QE2後も堅調に推移しています(図表③)。米国の投資家にとっては、自国の株価が上昇すれば、リスク許容度が高まるため、更にハイリスクハイリターン資産に投資する余力が生まれます。このことを反映してか、エマージング諸国の株は米国のQE1に歩調を合わせて上昇し、QE2後も堅調に推移しています(図表④)。現状の動きだけを見れば、来年6月まで続く米国の量的緩和は世界の株式のサポート要因といえそうです。

【図表③】



【図表④】



出所: 図表はブルームバーグのデータを基にニッセイアセットマネジメント作成

当資料は市場環境に関する情報の提供を目的としてニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。当資料のいかなる内容も、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。  
 <審査確認番号H22-TB162>